３２．≪現存する「ポンヌフ」、地名に残る「新橋」≫

「ポンヌフ」は、フランス語で、“新しい橋”の意味。パリは、セーヌ川の中州にできた都市ですが、「ポンヌフ」は、そのシテ島の最下流部においてセーヌ川左右岸をつないでいます。木橋しかなかったパリにおいて、初めての石橋でしたから、“新しい橋”と名付けられました。難工事の末、１６０７年に完成し、パリで現存する最古の橋となっています。(注)

さて日本でも、同時期に「新橋」が架橋されています。東海道が汐留川を横断するところに架けられた木橋です。１６０４年、日本橋が五街道の基点と定められていますが、その頃には新橋があったと思われます。「新橋」の命名は、すでに汐留川に橋が存在していてそれより新しい橋だったからとも言われています。しかし近代に入ると「新橋」周辺は激変していき、汐留川の埋め立てと共に橋自体が消滅し、地名として残ります。

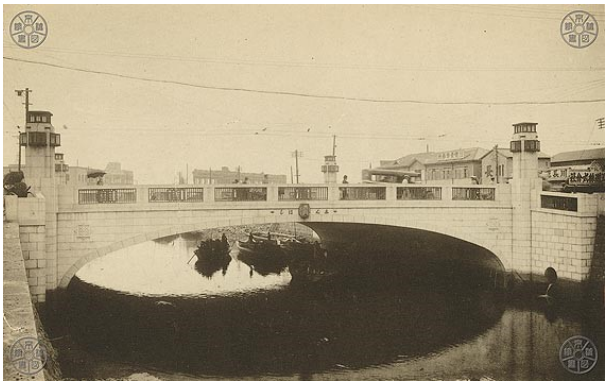
１８７２年（明治５）、日本最初の鉄道が開通すると、そのターミナル駅として「新橋駅」が「新橋」の南側に誕生。１９０９年（明治４２）、山手線ができると、現在の新橋駅の前身である「烏森駅」が誕生。１９１４年（大正３）、東京駅ができると、「烏森駅」が「新橋駅」に、元の「新橋駅」が「汐留駅」に名称変更されました。

国鉄が民営化されたあと、「汐留駅」の広い敷地が売却され、そのあとに汐留シオサイトができています。なお「汐留駅」は、地下鉄大江戸線や臨海線ゆりかもめの駅として復活しています。

注：ロンドン橋が、石橋となったのは、１２０９年ですから、４００年前になります。
　日本最初のアーチ石橋は、１６３４年に造られた長崎眼鏡橋です。

写真は、①大正期の新橋（京橋図書館蔵）、②ポンヌフ（blog pause- café より）、③汐留駅の空撮写真（１９７４年、国土画像情報（カラー空中写真 国土交通省より）、④汐留シオサイト（東京・大阪　都心上空ヘリコプター遊覧飛行ＨＰより）

①



②

③

④